

2025 年 11 月 16 日

第 66 回全国スポーツ推進委員研究協議会 長野大会

大会テーマ「行こう！地域スポーツの頂へ」

～日本のアルプス 信州からスポーツのつながりを全国へ～

林 但

11 月 13 日、14 日にかけて**長野市ビックハット**（長野オリンピックアイスホッケー会場）で表記は開催され、冒頭の開会式で**参加の方は 3300 名**と紹介されました。趣旨は、全国の委員が一堂に会し、スポーツ推進委員の目指す方向や地域スポーツの今日的課題について研究協議し、スポーツ推進委員の資質向上を図るとともに生涯スポーツの振興に資する。

<歓迎アトラクション&挨拶>

- ・高山村アルプホルン・クラブ：アルプホルン演奏
- ・長野商業高等学校：チアリーディング部 演技
- ・主催者・歓迎の挨拶は 1 名を除き代理者がほとんどでこういうことは初めての経験。

<表彰式> 横須賀市はなし

- ・文部科学大臣表彰全国で 79 名、神奈川県は 7 名。
- ・優良団体被表彰全国で 35 団体、神奈川県は伊勢原市スポーツ推進委員協議会。
- ・スポーツ推進委員功労者表彰者全国で 176 名、神奈川県は 15 名。
- ・30 年勤続スポーツ推進委員功労者表彰全国で 344 名、神奈川県は 15 名。

<基調講演>

- ・講師：出口クリスタ氏 長野県塩尻市出身（パリオリンピック柔道 57kg 級金メダリスト）
- ・演題は「今日を生き抜く一普通の私がカナダ初の金メダルをつかむまで」

今回が初めての講演ということであった。やんちゃで負けず嫌いであったが、小学生の時は特に目立ったこともない。中学校になって学んでいたところの館長の息子・娘から指導を受けてから勝てるようになってくる、高校 1 年のインターハイで優勝をした。その後計画を立てて取り組むことが不得手で計量に失敗など停滞。大学に進学し助言を受け、大技に取り組む・カナダ代表を目指す事に。

計画を立てて取り組む、やる時はやり・休むときは休む、前向きになりポジティブにも考え世界選手権、オリンピックと進む。努力は簡単にあなたを裏切る、運を掴むためにポジティブに準備・取り組むことの大切さに気づいた。

<シンポジウム>

コーディネーター含め、開催ブロックのため**関東甲信は 3 階奥に席が決められ、ほとんど PPT などの資料は見えない、耳を澄ませてもよく聞こえない状況**であった。内容的には、多様な人々のスポーツの機会創出や健康増進、スポーツによる地方創生や街づくりを通して共生社会を目指す。3 名のシンポジストがそれぞれの立場から複雑化する地域スポーツめぐる課題について意見交換、我々委員は期待される役割について考える機会とするように感じた。

会場の半分かくらいの方が基調講演を聞いたら退席で席はガラガラでシンポジスト力が入らない??

<2 日目：分科会>横須賀市は第 3 分科会：須坂文化会館に移動。

テーマ：「アダプテッドスポーツの推進と健康寿命の延伸を支えるスポーツ推進委員」

- ・コーディネーター（公立諏訪東京理科大学 篠原菊紀教授：フジ BS 脳トレ等出演：脳科学者）

・発表者：加藤正氏：長野冬季オリンピック他4回出場、銀・銅メダリスト）竹中雅幸氏（長野県レクリエーション協会会長）中嶋ゆり子氏（体操ユニット 元須坂市保健補導員会会長）

・前日とはうって変わって資料が良く見える、文字の大きさが大きい、聴衆のこと考えた資料と事例など実技で紹介、ここに篠原さんの絶妙な解説あり理解が進む。

・アダプテッドスポーツとは、障害の有無に関わらず、高齢者、子供、運動の苦手な人など、だれでもができるように、ルールや用具、環境を個々のニーズに合わせたスポーツのこと。パラスポーツもアダプテッドスポーツのひとつ。

・アイスブレイクとは、会議や研修、初対面の人との交流など、緊張した場面で「氷を砕く」ように、場の雰囲気や和ませて参加者の緊張をほぐすためのコミュニケーション手法です。私は研修担当の時やキャンプ他野外活動の時に使っています。

・**加藤正氏の事例からは、「できない」を「できる」に変える工夫をすなわち出来ることを考えることの大切さ。**アダプテッドスポーツの普及は、共生社会の実現に向けた第一歩、地域の住民全体で取り組み、健康寿命の延伸と地域活性化を実現することができる。

・**竹中雅幸氏の事例からは、アイスブレイクの事例、スポーツで人を繋ぐTUNAGAGE！プロジェクトの紹介・モルックのイラストなどを入れてわかりやすく説明され親近感を覚える。**さっと見た中で自宅にある図書は、以下の通り。

- ① あそびこころの理論と実際 アイスブレイク（エルピス社；石田易司著）
- ② レクリエーションゲーム（成美堂出版；全国福祉レクリエーション・ネットワーク監修）
- ③ お年寄りに受けるレクリエーション（大月書店：斎藤道雄著）
- ④ レクリエーションゲーム集（新星出版：（財）日本レクリエーション協会監修）
- ⑤ レクリエーションゲーム100（主婦の友社；小山混著）

・**中嶋ゆり子氏の事例からは、体操ユニットの活動から須坂エクササイズの紹介や効果など、実際に会場でも行う。**体を動かすと歌を歌うこと（デュアルタスク）→脳への血流量が増加→脳の活性化をして、認知症予防につなげる。

＜神奈川県受賞者祝賀会他＞ 初日 18:30 から 2 時間

・ひさしぶりに大きな会場があったことなど含め 130 数名の方が参加、今までと違って 1 テーブル（10 名程度）には 3 ブロックくらいの方が配置されみんな意見交換等話に夢中であった。

《参加して感じたこと・気づいたこと》

- (1) 3300 名の参加ということであったが、そんなにという気がした。会場の制約で暖房は入らなかった。初日の途中からの退席の多さにびっくり、少し残念。
- (2) 分科会発表はコーディネーターの進行も相まって充実した内容と多くの質問が出された。
- (3) 期間中他都市他県の方とも交流ができ、名刺交換も行い今後も情報交換など行っていきたい。



アトラクション



基調講演の場面



分科会 体操の場面